

## 日本のヒットドラマにおける女性像の長期的変化 —女性の社会進出は、どのように描き出されてきたか—

仁平 可那子

昭和 60 年の男女雇用機会均等法成立以降、女性の社会進出が促されてきた。平成期初頭に、結婚や出産を機に若年層女性の就業率が低下する M 字カーブ問題として指摘されていた現象は、時を追って解消されつつあり、その結果、家庭や職場における女性の役割も変化してきている。しかし、そうした変化が、社会を映し出す鏡であるといわれるテレビドラマにどのように反映されているのかについては、2004 年頃までの散発的な調査が存在するのみで、長期的な変化の具体的な様相は明らかになっていなかった。

そこで、本研究は、女性の社会進出に伴い、テレビドラマに映し出される女性像が、長年にわたって、どのように変化してきたのかを明らかにすることを目的とし、調査と分析を行った。

調査対象は、1989 年から 2020 年にかけて高視聴率を記録したヒットドラマシリーズの第 1 話、計 82 本とした。調査手法は、コーディングにより、「性別」、「年代」、「業種」、「交際情報」、「家事への参加」、「恋愛・仕事・家事に関する場面」、「男女が一緒にいる場面」などの出現度数を計測することとした。また、「登場人物の女性観を表す発言・行動」の抽出も手法に加えた。分析は、調査対象を、その制作年に基づき、1989 年—1999 年、2000 年—2009 年、2010 年—2020 年の 3 時期に区分し、各時期の調査結果を比較することにより行った。

その結果、テレビドラマに描かれる働く女性の職種は多様化が進んでおり、固定的性別役割において女性の職とされる業種に就く人の割合が減少していることが明らかになった。また、2010 年以降のテレビドラマでは比較的男性が多く属する男性社会の職業の中でも活躍している女性が多く現れるようになり、登場人物の発言・行動からは「結婚をすることが女性の幸せである」という考え方に変化が見られ、結婚よりも仕事に重きを置く女性の増加が示された。一方、登場人物の男女構成では、女性の社会進出が進むにも関わらず、男性のほうが時期を追って増加しているという現象が示された。このことは、女性が登場する場面が、外科医師や警察官など、かつて男性のものとされてきた職場に遷移し、かつその職場で活躍している姿が描かれていることと併せて、女性が固定的性別役割を超えて、いわゆる「男社会」に飛びこんでいき、その中で奮闘しつつある状況を映し出したものと考えられる。

本研究の成果は、30 年以上の長期に渡って、ヒットドラマを調査し、コーディングによる量的分析と番組内容の質的分析を組み合わせて、映像コンテンツに反映された女性の社会進出を、実証的かつ具体的に明らかにされたことにある。今後、ヒットドラマ以外のテレビ番組や映画作品にも本研究の知見と方法を応用することにより、さらに多くの成果が得られると期待できる。

(指導教員 辻泰明)